

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称	施策Ⅲ-4-1 多様な自然の保全
---------	---------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

森林整備課長 山内寛之

電話番号

0852-22-5682

事務事業の名称	森林病虫害等防除事業	
目的	(1) 対象	マツ林等（県民共有の財産）
	(2) 意図	森林の中でも山地災害防止機能、防風・防砂機能、景観維持機能等について高い機能を有するマツ林等の保全を図るため、薬剤散布、被害木の伐倒処理、感染源となるマツ林等での樹種転換を行い、被害の蔓延を防ぐ。
事業概要	市町村が市町村森林整備計画に基づき設定した守るべきマツ林の保全のために行う、薬剤散布等による予防、被害木伐倒による駆除等に対し支援する。市町村が景観や防災上の必要性から行う、ナラ枯れ被害木の伐倒による駆除等に対し支援する。	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 守るべきマツ林での被害木処理率（93%以上）	目標値	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	%
		取組目標値						
	式・定義 処理量/年間被害発生量（材積）（93%とは、松くい虫個体数を減少させる処理率として試験研究機関が示す数値）	実績値	72.8	65.5	55.0			
		達成率	78.3	70.5	59.2	-	-	%
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	21,168	40,710
うち一般財源 (千円)	8,881	14,384

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- 防除対策として予防措置と駆除措置を実施した。予防措置は、健全なマツを守ることを目的に、健全木への薬剤散布と樹幹注入を実施し、駆除措置は、翌年度の被害発生を抑制することを目的に、当年度被害木を薬剤または破碎による伐倒駆除等を実施した。
- この結果、平成29年度の島根県全体の松くい虫被害量は約10千㎡であった。ナラ枯れ被害量は約3千1百本であった。
- 駆除を行えない奥地や崖等で発生した被害木がある。
- 国予算の動向は、減少傾向で推移している。（H25：876百万円、H29：718百万円）
- 県予算の動向は、減少傾向で推移している。（H25：37百万円、H29：21百万円）

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- 駆除目標93%には届かなかったが、継続的な防除対策の実施により、県全体の松くい虫被害量は前年度と比べて13%減少しており、確実に被害量は縮減している。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- 守るべき松林で発生した被害木には、地形等の理由で処理を十分に行えないものがある。
- 処理を行えない被害木は放置され、次年度の感染源となる。

②困っている状況が発生している「原因」

- 奥地や崖等で発生した被害木は、持ち出しや薬剤による駆除を行うことができない。
- 奥地や崖等では人力による処理を行えないために、放置せざるを得ない。

③原因を解消するための「課題」

- 守るべき松林の整理・縮小と新たな区域毎の防除対策の実施。
- 市町村担当者や防除事業実施者へ防除技術の普及。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 市町村と連携して守るべき松林等の区域を調査し、必要に応じて見直し等を検討し区域毎に防除対策を実施する。
- 守るべき松林を再度点検等したうえで、区域毎の防除計画等に基づき必要額の確保に努める。
- 市町村職員や防除事業実施者を対象とした防除技術を普及する研修会等を開催する。